

エスピーエヌ新聞

2020年春号
Vol.2 (季刊)

発行：(株)エスピーエヌ
文京区音羽1-1-9 2F
☎03-3942-0138

創刊号大好評いただきました!!

いつも大変お世話になっております。『エスピーエヌ新聞』の創刊に当たり、皆様から温かい言葉をたくさん頂戴いたしました。苦労しながらも発行に漕ぎ着けて、本当に良かったなと社員一同感謝しております。紙面をお借りして、お礼を申し上げます。

さて、前号ではSPNの成り立ちについて書かせて頂きましたが、その時に前社(三和興業印刷株式会社)の倒産についても触れまして、様々なことを思い出しました。なかなか体験のできる事では無いので、紙面に残し皆様と少しでも共有出来ればと、記させて頂きます。

平成9年4月25日、その日がやって来ました。当日の朝は、普段通りに仕事をしていました。たまたまですが、当日は前社での一番大きな仕事の下版日でした。会社を出ていつもの営業に回って、お客様と現場の往復をしながら、下版の準備を進めていました。午後3時過ぎに会社からその電話が入りました。『会社が2度目の不渡りを出したから、倒産になる。どんな人間が取立てに来るか分からないから、会社も工場も閉めて全員帰社させる。齊藤君も危ないから会社の近くには近寄らない様に。』まるでドラマの二コマの様でした。私は「えっ下版はどうするの?」と途方に暮れましたが、お客様には迷惑をかけられません。出来るところまでやろうと、まず製版会社で下版の進捗状況を確認しました。修正

がもう直ぐだと言うので「では、検版に行きますので場所を貸してください」とお願いしました。そして、どうか倒産の事実が製版会社に伝わらない様にと祈りながらその会社に向かいました。その会社は前社の近くにあるので、そこに行くのもビクビクです。取立てに来るであろう怪しい人たちに見つかったら大変だなと感じてました。製版会社で検版をして、ダメな所はその場で修正してもらい、フィルムと原稿を全て持ってお客様の所に向かいました。お客様に全てを話し、そこに下版を取りに来てもらう段取りをとりました。一応それまでにお客様にも確認してもらおうと原稿を広げました。「齊藤さん、ここちよと違うな」「状況が状況なだけに何とか勘弁してもらえませんか?」「んゝまあ、しょうがない。あつてもこの返信ハガキは直してくれないと厳しいな」とやり取りがあり、どうしようも無いので製版会社に電話を入れました。修正内容を伝え、私の代わりの人間が取りに行くと言いました。(幸いにまだ倒産の事が伝わっていませんでした)そして、輪転会社の営業さんに下版フィルムと原稿を渡し、製版会社の住所を教えて修正フィルムの引き取りもお願いして、無事に下版を終わらせました。

もう一件、大変な事がその日にありました。取引のある大手の会社さんで大変お世話になった部長さんが、半年程前に子会社に向向になりました。その方から「齊藤君、今度こう

いう印刷をお願いするからしつかりやれよ」と電話を頂きました。会社が倒産した日にです。その方に事情を説明して「次回からにしていただけませんか?」とお願いしました。ですが、その方もその仕事を私に回すのに社内で相当頑張ってくれたのでしよう、「そんな事はできない、この仕事を前日に回すのにオレがどれだけ大変な思いをしたのか分かっていないのか!」と叱られ「お前の名の下でこの仕事をなんとかしろ。出来なければ次は無いです」と言われました。本当に焦りました。ご存知の方も多いと思いますが、印刷物を作るのは様々な工程を経ます。当時はデザイナーさんの指示のもと写植・版下を作り、そこから撮影して製版してフィルムを作り、それを元に刷版を焼いてやつと印刷機にかけられます。用紙も仕入れなければなりませんし、印刷後の断裁や製本といった加工があります。

大半の工程が外注です。倒産という事はそれまでの協力会社さんに仕事を頼めません。本当に困りました。ただ、なんとかしないとならないので、懇意にしている写植版下をお願いしている会社の社長さんに電話をしました。「実は三和興業印刷が倒産しました。そんな日に新規の仕事の話が有って途方に暮れています。」と話すとその社長さんは「いいよ、齊藤君が困ってるならうちでやつてあげるよ」と言ってくれました。「いいんですか?三和が倒産したから迷惑をかけるんですよ。」「いいよ、ちゃんとその仕事を受けなさい」と。地獄に仏とはこの事です。本当にたくさんの人に助けられました。すみません、今思い出したら涙が出て来ました。ありがとうございます。これから何卒よろしくお願いいたします。

お詫びとお知らせ

まず、皆様にお詫びを申し上げます。前回の創刊第2号でお知らせしました、『不動産事業部の開設』を予定しておりましたが、今回のコロナ騒動で、しばらくは見送る事といたしました。エスピーエヌの新しい柱にと期待をしていましたが、このような状況下で全くの未知な分野への投資は、厳しいものがあります。不動産事業を始めるには、保証協会へ補償金を積んだり、宅建協会に所属するための入会金や会費など、様々な費用が発生いたします。事務所にも色々手を加えなくてはなりません。なので、景気が回復するまでペンディングとさせて頂きます。その代わりと言っては何ですが、動画の撮影、編集、配信のお仕事に手を広げていきます。



↑
社長の齊藤が7年前に興味で撮影・編集した動画です。

こちらは、今やらさせて頂いている、印刷と繋がる部分が多々あります。お客様の広報活動のお手伝いと言うことでは、完全に一致します。

もともと、社長の齊藤が動画の撮影には以前から興味があり、趣味で家族の動画を編集したり、関連会社のイベントの撮影・編集をやっていたりしてありました。ですので、さらにアップロードし、また協力会社によるバックアップも備え、動画の撮影・編集・配信のお仕事を受注して参りますので、皆様何卒よろしく願います。

鍛えよう心と体
合気道
正気会合気道 江戸川橋支部
文京区関口1-23-6プラザ江戸川橋
108号室(郵便局の裏手)
☎03-5261-0587

稽古日	子ども	大人
火曜日	—	19時30分~
木曜日	18時~	19時30分~
土曜日	9時~	10時30分~

※稽古の見学は自由です。

交通事故・労災・各種保険取扱い
マキ鍼灸接骨院
症状にあわせ施術させていただきます。
まずはご相談下さい。

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 10:00~13:00	○	○	△	○	○	○
午後 15:00~20:00	○	○	△	○	○	△

休診日：水曜日、土曜午後、日曜日、祝祭日

院長 小谷真希子
柔道整復師資格・鍼灸師資格 保有
東京都文京区音羽1-1-9 1F
03-6318-1990
※初回のお客様に限りウォーターベッド
10分サービス (この新聞ご持参下さい)

江戸川橋で髪を切るなら
hair salon
kuroda
音羽通り沿い
東京都文京区音羽1-5-14
予約：☎03-3942-1936
定休日：毎週月曜日
第二・三火曜日
・PayPay 使えます
※初回のお客様に限りフェイシャル
サービス (この新聞ご持参下さい)

こだわりの薄焼きピッツアは
大きな直径30センチ!
トリコロレ
お持ち帰りOK!
(ウーバーイーツ&出前館も申請中)
江戸川橋駅1b出口 徒歩2分
文京区関口1-48-6 日火江戸川橋ビル第2
お電話でのご予約が便利です!
03-5225-6716

美容と健康に
江戸川橋の**本格カレー**
INDIAN DINING
カルカ
テイク・アウトもやってます!
江戸川橋交番から早稲田方面へ約50m
文京区関口1-23-6プラザ江戸川橋B1F
☎03-5228-7629
・PayPay 使えます
※初回のお客様に限りランチ50円引き
(この新聞ご持参下さい)

SPN グループ 役員変更のご挨拶

世の中は新型コロナウイルス感染拡大防止に向けての自粛により経済活動が大変に厳しい状況にあります。弊社も受注の大幅な減少により苦しい経営を強いられております。そのような状況にありますので、当社グループ三社もこれまでは三人が三社の役員を兼務しておりましたが、これからは自身の得意分野に力を入れてこの難局を乗り越えて行こうとなりました。それぞれ役員としては外れますが、顧問という形でそれぞれの会社を後押ししていきますので、これからも益々のご支援を賜ります様お願い申し上げます。なお、株式会社マ・シェリーについては、設立年月も浅いのでこれまで通りといたします。

令和二年六月

(印刷・映像)

株式会社 エスピーエヌ

代表取締役 齊藤 勝好

顧問 萩原 浩之

顧問 福田 隆行

(銀座クラブ)

株式会社 ティアラ

代表取締役 林 敦美

取締役 萩原 浩之

顧問 齊藤 勝好

(ペットサロン)

株式会社 マ・シェリー

代表取締役 福田 隆行

取締役 齊藤 勝好

取締役 福本 江津子

監査役 萩原 浩之

私の履歴書

幼児期

齊藤勝好

父が経営する「有限会社齊藤鋼管」は、ガス管や水道管の繋ぎ目の大きなネジを作る工場だった。自宅はその工場の二階で部屋は沢山あり、祖父母や叔母も同居していたし、住み込みで働く工員さんも何人かいた。工場の油と鉄の匂いに満ち溢れ、今でもその匂いが脳裏に焼き付いていて、時々思い出す。

幼稚園に入る前の記憶は、あまり無いが二つだけ良く覚えていることがある。

一つは、前号で話したが、私は母から全然



父(31歳)と筆者(4歳)

離れなかった。ある日、昼寝をして目が覚めると母の姿が見つからない。周りの大人に聞くと「興ちゃん(兄)と買い物に行きたよ。港屋さんかな」と言われた。私は、泣きながら一人近所の食料品店の港屋さんに走って行った。「お母さん来てる?」「今日は来てないよ」。もう一軒その近くにある食料品店にも行ってみるが、そこにも来ていなかった。私は、途方にくれながらトボトボ家路に向かう。国道を挟んで反対側に小見屋さんという食品店があったが、きつとそこに行つたのだろう。でも、幼稚園に入る前の幼い子供一人では、その国道は渡れない。(当時は信号機も横断歩道もあまり整備されていなかった)諦めきれないが、どうしようも無い。私は家の近くの十字路で泣きながら立っていた。しばらくすると、「あれ、僕はなんでこんな所で泣いているんだ?」と、何か覚めたものを感じ、諦めて家に帰った。

もう一つは、幼稚園の入園式の前日の事。私が母親離れが出来ないから、祖父祖母・両親が「勝好は2年保育では無く1年保育にして、入園を1年先伸ばしにした方がよいのではないか?」と家族会議をしているのを聞いてしまったのだ。(当時の幼稚園は1年保育が主流で2年保育は少数派だった)子供心にも、周りにそんなことで心配をかけているのが情けなく、自分は一入前のつもりでいたので、これは何とかしないとイケないと思った。もちろん、幼稚園に行くこともすごく楽しみにしていた。そして、次の日から大変身を遂げるのであった。朝、目覚めると自分から進んで幼稚園の準備をし、自分で制服に着替えて(ボタンは互い違いに掛けてたらしい)、母をおいて先に幼稚園のスクールバスの停留所まで向かって走った。後から母が「勝ちゃん(筆者)待って」と言いながら追いかけて来るくらい、自立(?)する様になった。今思うとあの家族会議はワザと私に聞こえるようにやったのでは無いか?四人ともあの世に行っているの、確認が出来無いのがとても残念である。

(続く)

スタッフからひとこと

福田 隆行

(1963年7月生まれ)

先日、犬の散歩をしていると、老夫婦に話しかけられました。先月14年飼っていた愛犬が亡くなってしまったそうで、毎朝二人で愛犬の生前の散歩コースを歩いているそうです。犬が大好きで、また飼いたいけど、今から飼ったら最後まで面倒が見れないし幸福な生涯を与えてあげられないので、もう犬は飼えないと淋しそうに言っていました。今は簡単にペットを買えますが、ペットを一生面倒みる覚悟が無ければ飼ってはいけないと思いました。ペットは飼主以外に頼る人が居ないのでから。



萩原 浩之

(1960年12月生まれ)

ー コロナの渦にー
(株)ティアラは小池都知事の言う、日ゆるナイトクラブ(接客を伴う飲食店)を4店舗を銀座村で展開して居ります。個人事業主(キャスト)を含め総勢約60名です。連日の報道の通り2・3月は深刻な客数減少に陥り、そして4月からは全店自粛する運びとなり、会社も銀座村も風前の灯火となりました。(4/7現在)しかしながら途方に暮れる訳には行きません。公的資金の融資やキャスト達への補助金の申請、業界を巻き込んでの都への陳情等、今出来る事を行いながらコロナの鎮静化を待つしかありません。いつかまた煌めく銀座に戻れるよう各キャスト、スタッフ達との手を握りしめ、しっかり連携し、その日を待ち続けます。



齊藤 勝好

(1963年4月生まれ)

2012年5月から始めた『家族みんなで自転車の旅』が、自宅の川崎を出発して2017年5月に広島県の福山市まで行ったのを最後に、ストップしてしまいました。理由は自転車を持ってそこに行くまでが大変になったこと、娘たちが社会人になってスケジュールが合わなくなった事などですが、なんとか再開したいと思ってます。この間、小学校のクラス会でその話をしたら『現地でレンタサイクルを借りればいいんじゃない?』などなど、様々な意見が飛び交いました。三人寄れば文殊の知恵とは良く言ったものです。

(ちなみにクラス会は10人以上来てました)



緊急事態宣言一日前

自転車の旅のブログ⇒

